

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)(1階フロア)

事業所番号	2794300059		
法人名	株式会社 日光ハウジング		
事業所名	グループホームひかり幸町		
所在地	大阪市浪速区幸町3丁目7-25		
自己評価作成日	平成29年4月28日	評価結果市町村受理日	平成29年7月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年5月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念の冒頭にもある「人として…」の想いを忘れず、家族様も交えて自然と笑顔になれるようなアットホームな環境に取り組んでいます。全入居者様を職員全員で支援するをモットーにホーム内外研修にも力を注いでいます。ホーム行事やレクリエーション、生活リハビリなどを通して、入居者様が自身の暮らしを自身のペースで自発的に過ごして頂けるためには、どのような援助や工夫が必要かを話し合い、その取り組みの過程を重視する事で職員の成長にもつながればと思っています。また、内科、精神科、歯科等の定期的な訪問診療および訪問看護により疾患があっても出来るだけホームでの生活が継続できるよう支援させて頂くとともに、終末期ケアについても出来る限り家庭的な雰囲気の中で、ご家族と一緒に終末期を迎えて頂けるよう支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、平成23年9月に、3階建ての1～3階部分に3ユニットで開設した。法人理念を基本とし、平成27年10月に、新管理者就任に伴い、全職員で話し合い、事業所独自の理念を「人」として…の想いを大切に、互いに信頼しあい、笑顔で快適に過ごせる生活の場」として創りあげた。そこには、「人」としての、尊厳・信頼・生存・幸福等の「人」としての基本的な人権への深い想いが込められている。人材の育成にも管理者、各ユニットリーダーが指導力を発揮し、特に、認知症ケア(中核・周辺症状)の教育・研修の実践の取り組みがある。(家族アンケートにホームの認知症ケアと精神科医連携は特に高く評価されている)。看護師を配置して日常的に利用者は健康管理が維持されて健康寿命を確保している。内科、眼科、歯科、皮膚科、精神科の医師による医療連携体制は看取りの実践に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

1階

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人」としての想いを大切にし互いに信頼しあい笑顔で快適に過ごせる生活の場。」というひかり幸町独自の理念を掲げ、各フロアの目に付く所に設置し、事あるごとに投げかけ、職員への定着を図っている。	事業所独自の理念を全職員で話し合い、「人」として…の想いを大切に、互いに信頼しあい、笑顔で快適に過ごせる生活の場」として創り上げている。各ユニットの居間兼食堂の壁に理念を掲示し、会議でも話し合い、全職員で理念を共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの夏祭り、敬老会、ふれあい喫茶地域の祭り、地藏盆、親睦会など保育所や近隣、町会と交流を図っている。 また、4月に隣町の公園でお花見を行い、自町に留まらず徐々にではあるが、つながりを広げている。	町会に加入し、地域での催事には積極的に参加している。近隣の散歩時での挨拶・会話、お花見、夏祭り、敬老会、ふれあい喫茶、保育園児との交流、中・高生の体験学習の受け入れ、介護相談等や町会の懇親会への参加等での密なる交流がある。	これからも、事業所も地域住民の一員として、地域に溶け込み、地元活動への参加、地域資源の活用、積み上げてきた認知症ケアの実践の地域への還元等の取り組み、独居高齢者の夜間の見守り隊の結成等の取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学高学年～中・高校生に向け、夏休みに介護1日体験実施や介護相談等、看板やのぼり、チラシ等でお知らせしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居様および職員の状況、事故報告、行事報告、取り組み等の報告を行い参加者様からの要望や意見を取り入れながらサービス向上に努めている。	平成28年度は、年6回開催し(1回は書類)、延べ53名の参加があった。参加者は、利用者、家族、町会副会長、地域包括支援センター職員、管理者、職員等の参加で、行事・事故・入居者状況等、双方向的な会議をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護を受けておられる方もおられ、市区町村の担当者や社会福祉協議会とは連携を図り、協力関係を築くよう努めている。	利用者に公的扶助受給者が多く、日常的に市の担当者とは相談・情報交換・指導を受けながら協力関係を築いている。運営推進会議時にも市の担当者とケア情報を交換し、ケアの質の向上に向けて取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は外階段を開口し、空気や季節感を感じて頂けるようにしているが、立地的に車の往来が激しいため、玄関は安全を優先し家族様からの要望もあり施錠している。職員が見守り、意向に沿える様できる限り支援している。	全職員は身体拘束をすることの弊害は十分に理解している。定期的に「虐待および身体拘束について」の内容で研修を行い、身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。玄関が車道に面し、車の往来が頻繁で、施錠をしているが、利用者の出入りには即応体制をとり、見守りを重視している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム外研修への参加、ホーム内での勉強会を実施している。また、日頃から気にかかるような発言・対応についてはその場ですぐ忠告・指導をするよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員に周知出来ていない現状があり、今後は勉強会や研修などで学ぶ機会を取り入れていく予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間をかけ、解りにくい文言や質問等を伺い、納得・理解して頂けるよう説明を行っている。また、改定・解約の際は速やかに通達し、了承を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の機会であったり、日頃から何気ない会話の中で入居者や家族様から伺ったりしている。また、ホームページを利用したり、家族会も開催していきたい。	苦情相談窓口を設置して意見・苦情・不安への対応をしている。毎月定期的に「お便り」を発行し、利用者の日常生活、各種行事等を報告している。各種行事を開催する中に、家族会的な話し合いの場を設置し、意見・提案等を傾聴してホームの運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー・ケアマネ・管理者で行う三者会議並びに職員、本部を交えての全体会議各フロア会議を行い、全員が意見や提案を出し合えるよう働きかけ改善できるものから実行している。	毎月定期的にフロア会議を開催して、職員の意見・提案等を聞く機会を設けている。その他にも、三者会議、全体会議等でも、職員の生の声を傾聴し、管理者と職員が話し合い、業務改善、教育・研修の内容・課題、ケアの質の向上に向けての、動機づけやスキルアップに繋げている。	今後は、さらに、職員のケア、特に、認知症に対する中核・周辺症状に対する知識や技術のスキルアップを図り、サービスの質を高める取り組みが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境面においては決して優れているとは言えないが、給与水準は個々の努力や実績、勤務状態などにより、その都度見直しをおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでの勉強会に加え、認知症介護実践者研修をはじめ法人内外の研修に積極的に参加を促すことで、職員一人一人のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設やグループ内施設への実地研修会を通じて交流を図り、取り組みや、事例検討、計画書作成など様々な意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話をしっかり聞き、ご本人の要望に合ったサービスの内容を説明、ご本人に納得して頂いたうえで、安心してサービスを受けて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めて施設を利用されるご家族のお気持ちに配慮し、不安の解消や罪悪感の解消に努めている。又、施設で提供できるサービスについて納得して頂けるまで説明させて頂くことで安心してご利用頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設で提供させて頂けるサービスを説明する一方他にご利用頂けるサービスについても一緒に考え、利用可能なサービスについては検索・検討をし、利用について一緒に考えさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	月に一回(必要時は随時)開かれるカンファレンスに職員全員が参加し、ご本人に合ったサービスが過不足なく提供されているか、今のサービスでご本人が満足して下さっているか等、ご本人の様子や意見等を中心に、共に支え合っていくための話し合いを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に発行する「お便り」で施設で実施した行事やその時のご本人の様子を連絡させて頂いたり、時には施設側から電話を掛けご本人とご家族で話をさせて頂いたりし、ご本人・ご家族・施設の絆を継続していく努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所を大切にしている方には、可能な限りご自宅で使用しておられた物をお持ちいただいたり、地図を用意し馴染みの場所を確認させて頂き昔馴染みの話題を提供する等の努力をしている。	利用者の生活歴や家族からの情報を収集して、利用者の従来からの生活の継続性を確保した支援に取り組んでいる。親しい友人、親戚、後見人、安心サポートの訪問や馴染みの近隣の散歩、ふれ合い喫茶、スーパー等や家族との外食、遠出等の支援がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者お一人おひとりに個性があり、お互いの相性もある事を理解し、例えば食事時の着席場所を考慮するなど、ご利用者同士の関わり合いや支え合いが自然にできるよう配慮する等努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所なさっても、ご家族からの相談や退所後のご苦労等にはじっくりと耳を傾け、可能な範囲でのアドバイスをさせて頂いたり、気分転換をして頂けるよう契約終了後のフォローもさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者が9人いらっしゃれば九通りの思いがある事を理解・認識しその把握に努め実現できるよう支援させて頂いているが、もし困難な場合は先記のカンファレンスでご本人本位に話し合いをし、よりご希望・ご意向に添えるよう検討している。	アセスメント・フェースシート、日々の関わり、利用者の日常の言動、全職員カンファレンス、家族からの情報を収集して、利用者の暮らし方の希望・意向を把握している。把握しづらい面については、家族との意思疎通を図り、利用者の自己決定を促がすように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入所前のご本人の情報収集、生活歴・病歴・服薬状況・趣味・興味有る物・過去の利用サービス・対人関係等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入所後はご入所前の情報を元に、実際に一日の過ごし方や集団生活への適応力、他ご利用者への関心等一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月「行動実施表」をスタッフ全員で記録しご本人により良く暮らして頂くための資料にし、課題の発見、必要なケアの発見に努めると共に、先記カンファレンスで意見交換をし以後の介護計画作成の資料としている。	アセスメント・フェースシート、診断書、個人別介護記録、管理日誌、介護日誌、個人別行動実施表等から個別ケア情報を収集して、介護計画書を作成する。見直しは、随時のスタッフ全員のカンファレンスを行い、行動実施表を基に、モニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の「介護日誌」を時系列で記録することで利用者一人ひとりの様子を知る事でケアする上での気づき・実践結果・工夫等を共有し介護計画の見直しに活かしている。急を要する連絡事項は「申し送り」ノートに別記しより速く周知し機能する努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人おひとり置かれている状況に違いがある事を認識、その状況を把握する。又、ご本人も生きておられる人間である事、そのためその時々でご本人の状況も変化することを理解し柔軟な対応、ニーズへの支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し施設全体での花見の会を実施したり、職員と一緒に近隣のスーパーへの買い物に出掛ける等をして頂く。又、可能な方には外部施設を利用して頂くなどで気分転換をし施設での暮らしが安全でより豊かで楽しい物になる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科医師往診(全員。ご希望の方は月1回の精神科医師往診、週1回の歯科医師往診、月1回の眼科医師往診を受けて頂いている。他に近隣の皮膚科受診(写真による受診を含む)・往診をご希望の方には受けて頂いている。	本人及び家族の希望を尊重してかかりつけ医の継続をしている。利用者及び家族が事業所の協力医療機関での受診を希望する場合には、本人及び家族の納得と同意を得て、事業所の協力医療機関での受診の対応をしている。看護師を配置し、内科、眼科、歯科、皮膚科、精神科の医師の医療連携体制も在る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護で健康管理と必要な処置等へのアドバイスを受たり適切な受診ができるよう指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者が入院されたときは、「介護日誌」や「お薬手帳」を持参、発症時の様子・既往症・服薬状況等細やかな情報提供に努めている。又、退院時には病院側医師、看護師、PT、栄養士等と退院後の生活について退院時カンファレンス等で退院後の生活についての情報提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えられた利用者様については主治医と相談の上、ご家族にその旨を伝えご家族のご希望を確認、施設での「看取り」をご希望された場合は「看取りケアプラン」等を作成、ご家族に説明すると共に職員にも周知可能な範囲の支援を実施することでご本人にとってより良く、尊厳ある最後を迎えて頂けるようなケアにチームで取り組んでいる。	「看取り指針」「看取りについての事前確認書」「終末期ケアについての同意書」等を準備し、入所の早い段階から利用者と家族に説明を行い、現状ではどこまでの支援ができるかを見極め、関係者との連携が取られている。主治医が終末期と判断した場合には、終末期ケア計画書やケア記録を整備し、職員教育も行い、利用者の尊厳・家族の思いや願いを汲み取るような看取りの実践が既にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の連絡方法を職員の目につく場所に張り周知徹底している。 新人職員を含む全職員にはミニ勉強会等で訓練し、実践力を身につけるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を行うと共に地域との連携協力体制を築いている。	年2回の避難・救出訓練は実施している。非常・緊急災害時マニュアルや連絡網等も整備している。スプリンクラーの設置や備蓄も準備している。商・工・住の混在した市街中心地域なので、非常災害時の協力体制は在る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	過去の生活・病歴・性格、また入居されてからの様子を踏まえて、日々の生活の中で関わりを持つように努めている。声のトーンにも配慮している。	定期的に「接遇・マナー」の内容で研修を実施し、全職員が対人援助サービスの知識と技術を身につけるように取り組んでいる。人生の先輩に対して尊厳やプライドを損ねない対応の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の行動、思いを聴き、対応に努めている。また、意思表示が困難な方に対しては、可能な限り本人の思いが表現できるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買い物に出かけたり、工作が好きな方には物品の準備をしている。また、フロア・居室どちらでも過ごして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の理美容がある。服装などについては、入居者様の好みに合わせ、確認するよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備については、主に職員がしている。食事は職員と入居者様、同じテーブルで食べており、配膳・下膳は出来る方にはして頂いている。	「無理なく美味しく食べる」を基本とし、献立表は業者の下で作り、食材はレシピ付きで提供され、職員がキッチンで調理している。検食材を冷蔵庫に1週間保存し食材を検査している。楽しみながらのおやつ作りもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて調理・食器などの工夫をしている。また、食事・水分量、キザミ食、トロミ使用については医師に相談した上で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。一人で出来る方には誘導して頂き、出来ない方には、職員が歯ブラシ・スポンジでの口腔内の清潔保持に努めている。週一回の歯科往診もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがある時はすぐに対応し、訴えが無い方に対しては、排泄表の確認や様子を見て、声掛け誘導し、トイレでの排泄ができるよう努めている。	個人別排泄表・介護記録に時系列に記録された個人別排泄記録を基に(利用者の習慣も考慮)、個人別排泄パターンを把握してトイレ誘導を促がしている。あくまでも、利用者の自立を目指した排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージ・ホットタオルを行い、また、果物や乳製品を取り入れ、自然排便ができるよう支援している。週二回の訪問看護師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は決まっているが、入居者様の体調に合わせて変更したり、入浴・シャワー浴を行っている。一人で入浴出来る方には、声掛けをし安否確認している。	利用者の体調や希望には柔軟に対応している。入浴拒否の場合には、日時変更、清拭、足浴、シャワー浴等に対応している。個浴槽は2方向介助ができる造りで安全を確保し、脱衣場は畳敷きである。入浴時には音楽、菖蒲湯、柚子湯、会話等での楽しみもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず、入居者様の状態に合わせて、居室・フロア内ベッドで休まれるか確認をして休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は職員全員が理解できるように個別にファイルしている。また、薬の変更時には介護記録・申し送りを行い、入居者様の状態を把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	物づくりを楽しむ、タバコを吸いに行き気分転換をするなど、一人ひとりの生活歴を踏まえて、「その人らしい生活」を考え、できることは取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コンビニ・スーパーでの買い物は日常的に行っている。普段、行けないような場所については入居者様に確認をした上で、日時を決め支援している。	利用者の体調や心身状況を考慮し、天気が良ければ近隣の市街地散歩、大型商業施設での買い物、道頓堀川沿いの遊歩道散策等や家族との外食、遠出等の支援がある。外出・戸外の支援は、重要な「生活リハビリ」と捉え、人々とふれ合い、季節を感じながらの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいは、基本的に一括してお預かりしているが、ご本人の希望により、レジでの支払い、受け取りなど自己管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月一回、職員からご家族様に「お便り」を送付している。電話については、ご希望があれば、いつでも出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の状態により、シンプルなフロアであるが、室温調整、空気清浄器・加湿器の設置、定期的な換気などを行い、心地よく過ごして頂けるように努めている。	居間兼食堂の共用空間には、壁一面の色紙細工の手芸品(昆虫音楽隊、鯉のぼり)、カレンダー、絵画、行事時の写真等が飾られて、季節感と生活感が溢れている。共用空間の全床はクッション材を使用し、居室の扉、共用空間の床の色は、落ち着きと温もりを感じさせる雰囲気があり、居心地よく過ごせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にベット・ソファなど用意しており、好きな所で過ごして頂けるように努めている。また、入居者様の状態に合わせて、テーブルの配置・座席など職員間で相談し、入居者様に確認した上で変わる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、慣れ親しんだ物を持って来て頂いている。また、好きな花や写真・絵などを飾り付けるなどして、居心地よく過ごして頂けるように努めている。	居室の入り口には、紙製手作りの立体型表札があり、居間兼食堂からも各利用者の居室が解る。室内には、お仏壇、テレビ、車椅子、家族の写真、家具、手芸品、絵、花等、従来の生活の継続性を確保している。クローゼット、ナースコール、スプリンクラー等を設置し、安心・安全を確保した好住環境が在る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札とは別に入居者様の好きな絵、写真を貼ったり、大きな字にかえたりと分かりやすいように工夫している。歩行が不安定な状態の方が歩きやすい様、テーブルの配置にも工夫している。		